

(様式1)

自 己 評 価 表

(愛媛県立大洲高等学校肱川分校)
学校番号(30)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
1 社会で自立するために必要な学力や、判断力、自ら課題を発見し、主体的・協働的に解決していこうとする意欲と能力を養います。 2 人権尊重の観点から、他者を思いやる優しい心と誠実な人生観を養います。 3 人の意見に耳を傾け、自分の意見を適切に表現できる能力を養います。	1 基礎・基本を重視し、少人数を生かした個に応じた丁寧な学習指導で、分ける喜びを感じられる学習活動を実践します。 2 生徒自らが課題を発見し、解決しようとする意欲と能力を育むための探究的な学習や学校行事を多く取り入れ、自己有用感を高める教育活動を実践します。 3 自分の能力に応じた資格取得を目標に努力することで、自信を持たせる教育活動を実践します。 4 4年次には、職業実践活動と松山東高校通信制課程の併修制度を活用し、社会性や自立するために必要な力を身に付けます。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	A	・「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、20%が「十分に成長している」、80%が「成長している」という肯定的な評価をしている。	・今後も少人数指導を活かした、生徒一人一人と向き合う丁寧な指導を心掛け、生徒の成長を促す。
学習指導	授業等の充実	・授業内容の精選を図り、個に応じた分かりやすい授業を行う。 生徒アンケートの授業に関する7項目について、そう思う・ややそう思うと回答する生徒の割合を高める。 A：90%以上 B：80%以上 C：60%以上 D：40%以上 E：40%未満 ・能力・適性に応じた個別指導を行い、学習意欲と出席率を高め、好きな教科を増やし、生徒アンケートの「この科目が好きですか」の項目について、そう思う・ややそう思うと回答する生徒の割合を高める。 A：90%以上 B：80%以上 C：60%以上 D：40%以上 E：40%未満	A	・生徒の評価の平均は97.8%だった。ティームティーチング、実習助手の適切な配置により、支援を要する生徒をはじめ個に応じた授業を試みることができた。	・基礎・基本が定着していない生徒が多いため、学び直しの時間を設けるといった工夫を継続しながら、卒業後の進路を視野に入れ、新しい知識が習得できるよう授業研究を行う。
			B	・アンケート結果は、1学期末及び2学期末平均で83.6%を達成できた。中学校からの苦手意識が残っている教科もあり、丁寧な個別指導を続けていきたい。	・1人1台端末を利用した学習方法を研究する。また、授業評価アンケートの結果を踏まえ、生徒の意欲を向上させる工夫を行う。
生徒指導	「総合的な探究の時間」	・達成感を味わえるような内容を検討し、活動報告の場を設けるなど創意工夫する。	A	・特色を生かした内容を各講座で展開しており、生徒も意欲的に活動ができていた。秋の茶会においては、学校全体で来客に對しおもてなしを行うことができた。また、校外コンクール（日清製粉主催）に応募、入選した。	今後も、生徒が他者と協力して主体的に活動することで、問題解決能力が身に付くよう活動内容の改善に努める。
	個人面接の充実	年間6回以上の個人面接を行う。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	A	・各担任を中心に、個別面談や家庭訪問、三者懇談などを多く行った。保護者との情報交換や生徒とのコミュニケーションをとる機会を多くとることができた。	・来年度も面談の記録等を活用し、教員間で情報交換をしながら生徒指導に役立てていきたい。
	身だしなみ指導の充実	・好ましい服装態度の定着を図り、違反件数の減少を目指す。 A:15件未満 B:20件未満 C:25件未満 D:30件未満 E:30件以上	A	・毎月実施している身だしなみ指導における違反件数は14件だった。違反についても軽微な違反がほとんどであり、すぐに改善がみられた。	・一部の教員のみが指導している状況にあるため、全教職員が日頃から違反や変化に気付けるよう意識を持っていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
生徒指導	交通安全指導の充実	・原付通学生を対象に交通安全講習会を実施し、交通事故0を目指す。	A	・原付通学生は大洲自動車教習所にて交通安全講習会を受講した。今年度も交通事故件数は0件であった。	・来年度以降も引き続き交通安全講習会を実施し、交通安全意識を高められるよう指導していく。
	悩み相談	・生徒とのコミュニケーションを大切にし、気軽に悩みを相談できる関係を構築する。	A	・日頃から生徒への声掛けや親身になって相談に乗るなど、生徒たちと良好な関係性を保つことができている。	・日頃から生徒の様子をよく観察し、担任とも連携を取りながら指導にあたることも、教員間でも情報の共有を図る。
進路指導	進路指導の充実	・校内就職模試の平均点が、A:70%以上、B:69～55%、C:54～45%、D:44～35%、E:30%未満の数値を設け、Bランク以上の実現を目指す。	C	・昨年度に比べ教材の難易度が上がり、Bランク以上を達成することができなかった。特に1・2年生の得点率改善が課題である。	・出題科目の内容や程度について把握した上で、教科主任を中心に教職員全員で連携を取り、生徒の学習段階に対応した指導を目指す。
	将来の進路や生き方	・アルバイトなど職業実践期間中のさまざまな経験を踏まえながら職業に対する理解を深め、卒業時点での進学・就職内定率100%実現を目指す。	A	・アルバイトを通じて職業に対する理解を深めながら、適宜面談、入試対策を行い、適切な進路選択の機会を提供できた。	・進路ガイダンスや職場見学などの機会を活用し、職業観の涵養に努める。また、定期的な面談を通して、在学中の進路先選定に向け取り組む。
特別活動	部活動の充実	・県定通制総体、全国大会県予選で上位入賞を目指す。 A:全国大会複数名出場又は総体優勝、B:全国大会1名出場、又は総体入賞、C:70%以上総体に出場、D:50%以上総体に出場、E:総体出場者50%未満。	A	・県総体優勝1名、全国大会出場1名と結果を残すことができた。生徒によって部活動への意欲に差があることが課題である。	・各自の目標を持たせ、前向きに努力できるような雰囲気づくりや環境整備に取り組む。
	学校行事の充実	・学校行事に積極的に参加する。また、行事の成功を目指し、生徒が互いに協力し合う態度を育てる。	A	・少人数でありながら、主体的な取組によって行事を成功に導くことができた。生徒が互いに協力したり、責任を果たすことができた。	・少人数の学校である特徴を生かし、生徒一人一人に活躍の場を設けられるよう工夫し、生徒の自己有用感を高めさせる。
安全管理	緊急時の対応	・防災訓練・避難訓練・シェイクアウトえいめ等を通して、緊急時に適切な判断をし、行動できる力を育てる。	A	・緊急時に、災害に対して各自どのように動けばよいかを判断し対応できるような年間4回の避難訓練と救命講習会1回を行った。	・様々な状況を想定し、災害に対しどのように対応し行動すればよいか、いろいろな立場や状況で訓練を行う。
保健管理	保健管理	・各種検査や健康診断等の結果を基に、家庭と連携し健康の保持増進を図る。	B	・各種検査等は、年間を通じほぼ予定通り実施でき、検査結果を保護者にも連絡し早期治療を促した。	・各種検査の実施にあたって、分校の学校行事とともに本校の実施時期も考慮し計画する。
		・生徒が安心して楽しい学校生活を送れる、居場所づくりを目指す。	B	・教職員間での情報共有に努め、積極的に生徒に声を掛け、早めに対応することができた。	・生徒が心身ともに健康を保てるよう、早期対応を心掛け、安心して学校生活を送れるようにする。
組織運営	学校づくりのビジョン	・スクールミッション、スクールポリシーを念頭に、重点努力目標を徹底し、校長の学校づくりのビジョンを教職員間で共有・実践する。	B	・校長の学校づくりのビジョンを理解し、生徒のために教職員の意識統一を図る実践活動ができた。	・今年度の活動状況を踏まえて、重点努力目標やスクールポリシーの見直しを検討する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
組織運営	職員会議等	・職員会議や連絡会の資料を事前に配布して会議の効率化を図り、活発な意見交換を行う。	A	・議題や資料の精選など職員会議の効率化が図れ、時間短縮と活発な意見交換を行うことができた。	・さらなる効率化のために、事前に打ち合わせできる内容については、話し合いの進め方などについて担当者と事前検討を行う。
教職員の働き方	勤務時間等	・教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。時間の有効活用とマネジメントの意識を向上させる。ノー残業デーを設定しライフワークバランスの意識向上に努める。	B	・効果的なテレワークの実施や金曜日のノー残業デーなど、勤務時間を意識し、効率よく活動することで、勤務時間外の労働を最小限に抑えられた。	・校務分掌における分担方法の改善や業務の均等化を図る。また、テレワークのさらなる効果的な活用や、教職員の心身のリフレッシュに努める。
	休暇の適切な活用	・年休の適切な活用を促進し、休めるときには休むという意識の定着を図る。	A	・年休の取得など、休みやすい雰囲気づくりができており、適切な休暇を取得できている。	・長期休業中など、休める時には休むという意識の定着のため、年休取得の適切な促進に努める。
研修	授業研修等	・他教科授業参観を2回実施する。 ・ホームルーム活動参観を1回実施する。	C	・他教科の授業参観については実施報告がなく不十分であった、ホームルーム活動については、人権教育において参観が見られた。	・本校では教科をまたいだチームティーチングの実施等で、他教科授業参観については充足感もあり意識が低い。対策としては授業参観週間等をもけるなど強制を伴う形にする必要がある
図書	読書活動の充実	・年間10冊以上の貸出冊数を目指す。A：10冊以上 B：7冊以上 C：4冊以上 D：2冊以上 E：1冊以上	A	・貸出冊数は一人当たり12冊であった。授業での活用や希望図書の購入により、多くの生徒が読書に親しむことができた。	・教科指導やホームルーム活動での活用等、図書に触れる機会を増やし、読書の習慣を定着させる。
保護者との連携	保護者との連携	・保護者の学校行事参加率90%以上を目指す。A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D 60%以上 E：50%以上	A	・体育祭や文化祭での共同展示やバザー等多くの保護者の協力を得て、実施することができた。	・PTA理事会等において、十分な話し合いが行えるようにPTA会長との連携を密にして、学校行事をより充実させる。
		・保護者が教職員に気軽に相談できる雰囲気づくりをする。	B	・必要な場面では、その都度連絡を取るように努めた。	・必要に応じて連絡を密に取り、より良い連携が取れるように努める。
	保護者等への情報提供	・PTA月報及びホームページを活用して、学校の情報や活動の様子を随時提供する。A：HPアクセス数80以上 B：60以上 C：50以上 D：30以上 E：30未満	A	・PTA月報で文書で伝えるとともに、今年度も学校生活の様子についてホームページで随時情報提供することができた。	・PTA月報で文書で伝えるとともに、ホームページで学校の情報や活動の様子を随時提供する。
人権教育	人権教育の充実	・いじめのない明るい学校づくりを目指す。A：0件 B：1件 C：2件 D：3件 E：4件以上	A	・年2回の困りごとアンケートの結果、今年度のいじめ発生件数は0件であった。	・アンケートや面談により、友人関係のトラブル等の早期発見、早期対応に努める。
		・生徒一人一人のニーズを正確に把握し、それに応じた教育を提供する。	B	・担任をはじめとする各教職員の情報共有を積極的に行い、生徒の状況把握に努めた。	・保護者と連携しながら、教職員がチームとして対応に当たっていく。
環境育	職場環境	・心身共にストレスなく健康的に働き、仕事に充実感を持てる環境づくりを目指す。	A	・職員間のコミュニケーションは良好で、心身共にストレスの少ない職場環境ができています。	・労いや感謝の言葉を声に出して伝え、やりがいを持って働きやすい職場環境を整える。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。